

# 大道芸アジア月報 2022 年 12 月

vol. 33, no. 12

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

## ★大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

■大阪・天保山海遊館広場 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/>■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>■名古屋・大須ふれあい広場 ■名古屋 POP UP ARTIST <http://popup-artist.com/index.html>■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/feature/daidoge.html>■ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、ジャックモール） <http://daidoge.jp/>■お台場・デックス東京ビーチ ■みなとみらい東急スクエア ■テラスモール湘南 [www.studioeggs.com](http://www.studioeggs.com)■東京都ヘブンアーティスト [www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/](http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/)■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

※新型コロナウイルスの蔓延状況によって実演していない場所もあります。確認の上、お出かけください。

## ★説経節復活の立役者・青木久子さん、7月6日、逝去

昭和 13 年（1938）、熊本県宇城市（旧不知火町）生まれ。説経浄瑠璃若松会顧問。板橋区志村福祉事務所のホームヘルパーだった昭和 43 年（1978）、同区内在住だった松崎寛の担当となった。松崎は盲目で、その前年に妻を亡くし、失意の底で酒に頼る生活だった。あるとき、松崎の家に三味線とバチがあるのを発見し、父親がもともと説経節の芸人であったことを知り、衝撃を受ける。それから松崎の社会復帰のためには、父親である初代若松若太夫の芸を復活させるのが最良と考えて、活動をはじめた。残された台本を解説して、さらにそれをテープに吹き込んで松崎に聴かせて記憶の蓋をあけるなど、献身的な支援のおかげで、二代目若松若太夫は昭和 55 年、三十数年ぶりに舞台をつとめるまでになった。若松若太夫はすでに死亡したとされていたため、奇跡の復活として、新聞やテレビなどで大きく取り上げられ、昭和 57 年、東京都無形文化財に指定された。昭和 63 年には文化庁芸術祭優秀賞受賞、平成 2 年、伝統文化ボーラ賞特賞など、数々の栄誉をうけるが、その陰には常に青木の姿があった。平成 11 年（1999）二代若松若太夫が没すると、現三代若松若太夫の後見をつとめ、若松派の説経浄瑠璃発展のためにつくした。11 月 26 日におこなわれた第 36 回若松若太夫独演会は、「青木久さんを偲んで」と銘打たれ、三代若太夫ははじめ出演者、観客ともに故人を悼んだ。

## ★浅草雑芸団の催し

子供たちの伝統芸能体験：東京芸能ゆうえんちワークショップ&amp;公演

●12月10（土）玉すだれワークショップ 親子で申込み 会場：荒馬座スタジオ（板橋区）

申込み：<https://kodomo2023-tamasudare.peatix.com>電話：03-6804-2660 e-mail [geinouws@gmail.com](mailto:geinouws@gmail.com) 全日本郷土芸能協会

●2023 年 1 月 15（日）公演・東京芸能ゆうえんち 会場：イイノホール（霞が関）

浅草雑芸団、江戸里神楽松本源之助社中、二子流東京鬼剣舞、檜立て踊り保存会

入場無料

申込み：03-6804-2660 e-mail [geinouws@gmail.com](mailto:geinouws@gmail.com) 全日本郷土芸能協会

## ★今月の大道芸公演

△集まれ！池袋みんなの大道芸 <https://www.geigeki.jp/performance/event308/#Cocochi> ○池袋・東京芸術劇場前広場

●11月26（土）27（日）

Cocochi-kit、ゼロコ、Entertainer Hi2、うつしおみ、HARO、アストロノーツ、STLTANGO、to R mansion、せせらぎ

△第 22 回ヘブンアーティスト公開審査会 <https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/bunka/heavenartist/>

○池袋・東京芸術劇場前広場

●11月29（火）13：15～15：45 音楽部門

●11月30（水）10：30～15：30 &amp; 12月1（木）10：30～15：15

△ふじさわスタチュー美術館 2022 [https://twitter.com/fujisawa\\_statue/status/1595744311760474112/photo/2](https://twitter.com/fujisawa_statue/status/1595744311760474112/photo/2)

●12月3（土）4（日）○藤沢駅北口ペデストリアンデッキ

キノコの国の住人、PIRATA MICIO、出会いの像レプリカ、アメノシズ、旅する絵画、マネキン先輩、メタルちゃん、かかしのもへじ、イロノナイ世界、アストロンボーツ、アマビエちゃん！、石田さん、パト、マリオネットヨモギ、可面笑楽、豆腐の…小僧…？、With balloon、しろみときみ、ヴィーナスの誕生！ ペインター

△シルヴブレ第 12 回公演『レザニモー、ココにも』 <https://svp.twinstar.jp/> ○横浜市・人形の家あかいくつ劇場

●12月3（土）13：00～ / 17：00～

●12月4(日) 11:00～ / 15:00～

前売¥3000(当日¥3500) ※18才以下・前売¥2000(当日¥2500)

問合せ: [accircusticket@gmail.com](mailto:accircusticket@gmail.com) 電話:090-4595-3512 アフタークラウディカンパニー

△異世界住人のパフォーマンスライブ#2 [http://fine.tok2.com/home/ryuhan/hyoga/202212\\_event.html](http://fine.tok2.com/home/ryuhan/hyoga/202212_event.html)

●12月4(日) 13:00～17:00 ○浜松市 クリエイト浜松

健山、PESTRICA、ノナメ、わんにゃんパーク、大道芸人しゅん、じゃぐたく、ジャグリングドラゴン ヒョウガ

△東京2020大会1周年記念文化イベント <https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/1yearanniversary/bunka.html>

●12月4(日) ○イオンモール武蔵村山

めぐみ梨華、ココナッツ山本、太平洋

△ガールズ チンドン フェスティバル 名古屋公演 <http://bentenya.jp/> ○名古屋市・西文化小劇場

●12月9(金) 昼の部14:00 / 夜の部18:30

出演: べんてんや、チンドン芸能社、ちんどん鈴乃家

前売¥2500(当日¥3000)

問合せ・申込み: 電話090-8541-7024 べんてんや事務局

△東京クリスマスマーケット大道芸2022 ○日比谷公園にれの木広場

[https://twitter.com/hashtag/%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%83%9E%E5%A4%A7%E9%81%93%E8%8A%B82022?src=hashtag\\_click](https://twitter.com/hashtag/%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%83%9E%E5%A4%A7%E9%81%93%E8%8A%B82022?src=hashtag_click)

●12月9(金)～25(日)

Tento、えはら、MAKi、Hooper MAEP、こ～すけ、Suke3 & SYU、TSUBAKI(日替わり)

入場料: 大人(平日) ¥1000、(土日) ¥1500

△第28回亀戸大道芸 <https://www.kameidodaidoge.com/> ○亀戸十三間通り商店街

●12月11(日) 12:00～16:00

サンキュー手塚、CHIKI、口岩美保子、ものまる、ハートパンチャーしんのすけ

猫のアーサー、狼執事、森の人〜クリスマスツリー〜、アンティーク・トリリー、名のない人形

△台東区竜泉・西徳寺・帰命法会芸能奉納 <https://saitokuji.tobihiro.jp/> ○台東区竜泉・真宗仏光寺派・西徳寺

●12月11(日) 13:00より法要、14:00～16:00 伊瀬大神楽山本源太夫組

お初穂料¥1000

※11月27日(日) 14:00より、同寺にて、ドキュメンタリー映画「それでも獅子は旅をつづける」上映会

問合せ・予約: 03-3875-3351(西徳寺)

△ソーシャルサーカスフェスタ in 象の鼻 <http://www.slowlabel.info/> ○横浜港・象の鼻テラス

●12月11(日) 13:00～17:00

△東京ドキュメンタリー映画祭 人類学 <https://tdff-neoneo.com/> ○新宿、K's シネマ

●12/13(火) 10:00 ●12/22(木) 10:00 「それでも獅子は旅をつづける 伊勢大神楽」(神野知恵・山中由里子)

●12/13(火) 12:05 ●12/18(日) 10:00 「ウムイ『芸能の村』」(ダニエル・ロベス)

●12/13(火) 13:55 ●12/22(木) 12:05 「ミステリーズ」(ダニエル・グレコほか) 「チュブック」(多摩美大)

●12/13(火) 16:05 ●12/22(木) 14:15 「シャーマンと芸能者(短編集)」(川瀬慈、松永由佳、和崎聖日ほか)

チケット: ¥1500均一(小・中・シニア¥1000) 特別鑑賞券あり \*前売りはwebで鑑賞日の3日前から上映30分前まで

△ジャパン パントマイム ネクスト2022 <https://japanpantomime.com/jpn2022/> ○両国シアターX

●12月17(土) 15:00 Aプロ: 金子聡、金定来音、スーパーパントマイムアター SOUKI、橋本フサヨ、ハンプルベル、山田ヒデノリ

19:00 Bプロ: woody、魁士、京本千恵美、小島屋万助劇場、伝三、長井直樹、前田秀

18(日) 14:00 Cプロ: 藍木二朗、歩、大阪パントマイムグループ、北京一、たちざわ〜、ヘルシー松田

18:00 Dプロ: Art Factory SARAM、加納真実、鈴木秀樹、細川紘未、奈良部義彦、山本光洋&小坂部耀佑

一般¥4000、学生¥3000、子供¥1000、当日¥5000

オンライン予約: <https://japanpantomime.com/jpn2022/>

事務局: 03-3845-9433 (13:00～20:00)

△伊勢大神楽講社・増田神社総舞奉納 <https://www.kandayuyamamoto.jp/> ○三重県桑名市太夫・増田神社境内

●12月24(土) 12時半から14時ごろより

参加: 山本勘太夫社中、山本源太夫社中、森本忠太夫社中、加藤菊太夫社中、石川源太夫社中

問合せ: 0594-73-2788

△祝福芸はるこま七福神めぐり ○隅田川七福神めぐり

●2023年1月3(火) 10:00より七福神めぐり 13:00より向島2丁目まち廻り 14:30より奉納演芸会(弘福寺門前)

△KYOTO 大道芸祭2023 <https://www.npokpa.com/KyotoStreetProject/fes2023/> ○ゼスト御池地下街

●2023年1月2(月) 3(火)

2(月): 縁、カナールペキノワ、たいが、チムチムサービス、

3(火): ガンジスシンダスドーダス、リユーセイ、Rei Iwakura、ASUKA、マスクマスク・マンマン、

両日: シンクロニシティ、リスボン上田、ロッキイ

△第18回さいたま新都心大道芸フェスティバル [https://www.amatias.com/asp/event.asp?e\\_code=E0000419](https://www.amatias.com/asp/event.asp?e_code=E0000419)

○さいたま新都心けやき広場

若林正の

## 食って極楽

玉子かけごはん…

上野の森さくらテラス「かつ楽」

たて続けの舞台公演も一段落。のんびりと、女房ふたりで博物館巡りに上野に出てきた。先日の公演場所が上野だったので、その際に気になる店を見つけ、昼飯はここにしようと思っていた。上野駅前の、西郷さんの銅像下にある飲食街、上野の森さくらテラス内の「かつ楽」。何故目に止まったかという、「玉子かけご飯食べ放題！」という店頭の看板。う〜むまだまだ食欲は衰えてはいないようだ。

という訳で入店すると広い店内に、昼飯時なのにそれほど混み合っていない。飲食街だからお客さんが分散してるのか、それともみんな玉子かけご飯食べ放題につられるほど意地汚くないのか？ともあれワタシは味噌カツ定食¥1400にカキフライ 2 個¥400、女房はヒレカツとカキフライ盛り合わせ¥1480。少し張り込んだけど、女房に家事任せきりだった埋め合わせだ。さてお味は…味噌汁が美味！ダシ効いててほんのり柚子の香り。お代わりしようと飲み干したが、汁はお代わりできないと知りガッカリ。カツは厚みあり香ばしくカラリと揚がって、味噌ダレも良い感じ。



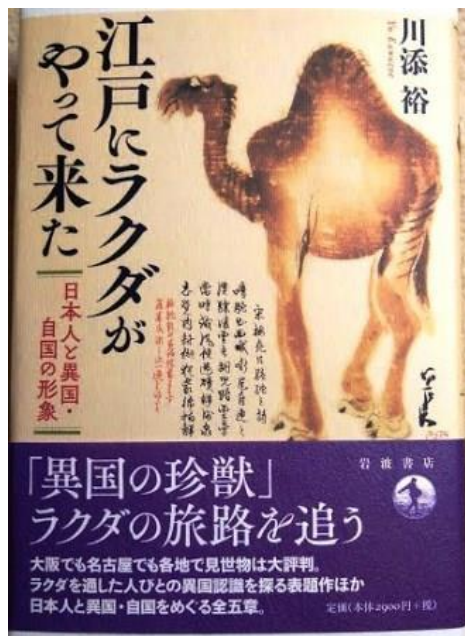
カキフライは大粒で、んま〜い！飯も進み早速お代わり。セルフサービスで、キャベツと卵も取り放題。とはいえ何杯も食えんので、代わりに卵 2 個がけで勘弁してやろう。揚げ物はもたれるから少し控えめにね。てな訳で大満足のランチでありました。

○3 杯メシはさすがに食わん度＝5 ワカ

大道芸・見たり・聞いたり・演じたり  
☆その 373

## 大道芸関連本の紹介

上島敏昭



●『江戸にラクダがやって来た』川添裕  
著、岩波書店、2900 円+税

著者は横浜国立大学名誉教授で、見世物研究の第一人者。著書に『江戸の見世物』（岩波新書）や『見世物探偵が行く』（晶文社）など、また樋口保美との共同監修『国立劇場 見世物資料図録』などがある。本書の構成は次の通り。第一章〈江戸にラクダがやってきた〉、第二章〈舶来動物と見世物〉、第三章〈開国期における異国・自国の形象〉、第四章〈日本人になってみる〉、第五章〈横浜が売る「ニッポン」〉。見世物を題材にした、いわゆる文化誌で、江戸末から開国期の日本人が異文化に対して抱く、憧れ、怖れ、摂取、反発などさまざまな反応・対

応について詳述している。巻末には、注釈リストが 37 頁、主要参考文献リストが 7 頁。久しぶりに、いわゆる専門書を読んだ。

本書の芯となっているのは第一章で、本書の 2/3 を占めている。ここで語られているのは、文政から天保期にかけて大坂・江戸・名古屋をはじめ全国各地で見世物興行されて、まさに空前絶後の大ヒットとなった、動物のラクダの動向とその見世物をめぐる社会の動向で、いわゆる見世物の文化誌である。

このラクダの見世物がいかに大人気であったのか——というところから説き起し、長崎にオランダ船に乗って「来日」した、雄雌 2 頭のラクダが、全国各地で巡業を重ねる様子を、当時の資料、すなわち浮世絵やビラ、文化人の見聞記などで丹念にたどる。やがて雌が死に、雄 1 頭となってからも興行されて忘れ去られるまでの十年以上にわたるまでを詳述する。

そもそも、歌舞伎などに比べて仮小屋での見世物興行は資料がきわめて少ない。そのなかにあってこのラクダの興行は、当時の文化人たちが文字で記録してくれたおかげで、膨大に残っていた。それを渉猟し、ていねいに読み込んで、構成し、ひとつの見世物の栄枯盛衰を実証的に記しているのは、画期的だと思う。

本書によれば、大坂・江戸・名古屋の人気のすさまじさは、現在の AKB やジャニーズをはるかに上回る。それがどうやら全国を一巡したのちは、巡業に出ても小屋は閑散としたものだったらしく、どこで死んだのかもわからないという。なんともきびしい現実をみる思いだ。

同じ章の落語「らくだ」についての解説もおもしろい。この中に登場する、「らくだの馬」というあだ名や「かんかのう」の唄や踊り、あるいは呑みつぶれた願人坊主（歌舞伎から拝借とのこと）など、きわめて同時代的な落語だったことを明らかにしている。

第四章も刺激的で、19 世紀後半に西欧に巻き起こったジャポニズムの中心にあったのは浮世絵ばかりではなく、いち早く洋行した軽業や曲芸でもあったことを明らかにしている。第五章で紹介されている、横浜に存在した「サムライ商会」も興味深い。きわめて特徴的な建物の外観は、日光金谷ホテルや箱根富士屋ホテル、奈良ホテルなどにも通じるが、そこにかかわる人的ネットワーク（丹下健三、獅子文六、新渡戸稲造、鈴木大拙など）も意外なつながりに驚く。

ところで読み終えて、前号で記した静岡の大道芸大会について考えた。日本/外国の奇妙奇天烈でいびつな、異文化に対する認識は、二百年前も、飛行機で簡単に行き来できる現在でも、ほとんど変わっていないことに唖然とした。なんとも複雑な気持ちだ。

●『進駐軍を笑わせろ！』青木深著、  
平凡社刊、3800 円+税

戦後芸能史に確実な役割をはたしながら、その存在がほとんど知られておらず、記録すらすっぱり抜け落ちていたのが、GHQ、いわゆる進駐軍の慰問演芸である。本書はそれについてのはじめてのまとまった研究書である。著者は 1975 年生まれ、都留文科大学教授。すでに『めぐりあうものたちの群像—戦後日本の米軍基地と音楽 1945-1958』（大月書店）などがある。





巻末には文献リスト 12 頁、人名・事項索引 14 頁。これまたぶあつい専門書である。

内容は、第一章〈米軍慰問ショーの草創と活況〉で、慰問ショーがはじまった経緯とその概要を記し、第二章〈進駐軍で色物を〉、第三章〈軽業曲芸の世界〉、第四章〈歌舞音曲とアメリカ〉で、具体的に、どのような演芸が、どのような演者により、どのように演じられたのか述べられ、最後の第五章〈米軍慰問ショーが衰退して〉で、終焉を記して、さらに現在の演芸に与えた影響についても簡単に記している。

進駐軍慰問が行われたのは、第二次大戦後の占領期から朝鮮戦争を経て 1950 年代後半にかけての十年ほど。日本全国に散在した米軍基地をはじめ、都市部や観光地にあった接収ビルに設けられていた娯楽施設が会場で、観客は米軍人のみ。日本語が使えないため、落語や浪曲など日本人にとって馴染みの芸能は「お呼びがかからず」、脚光を浴びたのはしゃべりも物語も関係ない、身体と道具を駆使したパフォーマンスであった。ショーに必ず入ったのが、欧米由来のダンスで、ほかにジャグリングや太神楽曲芸、サーカスの軽業や足芸、自転車曲乗り、奇術、紙切り、あるいは百面相、人間ポンプ、居合抜き、即興の漫画描き、指笛などの珍芸だった。第二章から第四章にかけて、具体的に記される演芸は、昭和 40 年ごろまでしばしばテレビで見たことのある芸の数々で、本書を読みつつ、昔の思い出がよみがえった。そのころまでは慰問演芸が、少なくともテレビの中では、生きていた。今となってはマボロシの演芸ばかりだ。

本書は、著者が 2001 年から 2004 年

にかけて、その当事者へ聞き取りをおこない、あちこちに散らばっていた文書記録（芸能新聞、雑誌など）を探り当て、拾い集めてまとめたものである。丹念で地道な作業の成果である。

わたくしごとだが、私がお手伝いさせてもらった東京コミックショウのショパン猪狩さんの自伝『レッドスネーク COME ON!』でも、この慰問ショーについて記している。ショパン・定子・パンの猪狩三兄妹のコミックボクシング・レスリングショーも慰問専門の演芸だった。ここでの経験からショパンのカタコト英語まじりのしゃべり芸が生れ、定子の女子レスリングが生れ、パンのパントマイムが生れた。ショパンの連れ合いであった猪狩千重子も、一人で男女のラブシーンを踊るエロティックなダンスを持ちネタとしていたが、やはりその原点は慰問ショーにあった。

著者が聞き取りをおこなった慰問ショーの関係者は、みな鬼籍に入ったという。慰問ショーについて新たな事実を発見するのは、とても難しいと思う。しかしこの慰問ショーが現在に及ぼした影響については、この本を元にしてかなり詳しく研究することができるようになったのではなかろうか。



●『紙芝居がはじまるでえ——大塚珠代・街頭紙芝居師半生記』（大塚珠代著、ライティング工房（山形県鶴岡市）刊、600 円

著者は大阪を拠点に活動する街頭紙芝居師。紙芝居というと、古くさい

と思いがちだが、パフォーマンスとしては盛況で、「わたし（著者）参加している SNS での全国紙芝居交流サイトには約二百人もの同好者が登録している」と書いている。もっとも、街頭紙芝居をつづけている人となると、大阪で数人、東京で一人か二人、九州の筑豊と甲府にもやっている人がいたが、現在ははどうだろう。いずれにしても絶滅危惧職業ではあろう。

本書は、副題のように著者の紙芝居人生の回想記。全 27 話で、ところどころにコラムが挿まれている。情報とすれば、1983 年まで大阪府だけに残っていたという「紙しばい業者条例」にもとづいておこなわれていた「紙芝居免許」の記録は貴重だと思う。その取得にむけて、「紙芝居業者試験対策講座」というものがあったというのも初めて知った。そこでは貸元制についてのレクチャーや紙芝居で売る駄菓子の紹介や試食があった。また紙芝居業者には年一回のレントゲン検査が義務付けられていたというのも、時代を感じさせる証言である。また、実演場所（ショバ）を先輩紙芝居師から譲り受ける話や子連れの母親同士二人で、紙芝居をやりながら飯屋を切り盛りする話などは、軽い調子で書いているが、かなり生々しい。

著者が紙芝居を始めた 1981 年当時、まだ 20 代前半のうら若き女性には珍しく、テレビや新聞、雑誌などにもしばしば取り上げられ、マスコミに登場することも多かった。また地方に招かれたり、フランスやアメリカ公演なども経験し、大きなイベントにも出演した。それについても記されているが、著者がベースにしているのはあくまでも、昔ながらの街頭紙芝居、——路地裏で十人から二十人ぐらいのこどもに向けて行う紙芝居だという。

【イベントの紙芝居も楽しいけれど、それは一期一会の出会いだ。本来の紙芝居は、日常の中に組み込まれたこどもの遊びの世界の一コマとしての紙芝居だ。常連のこどもたちと取りとめのない会話をかわしながら、公園の片隅で紙芝居のお菓子を売りながら紙芝居をする。イベントの圧から解放されるのんびりとした気持ちになり「ああ、これだな。」という感になる。】

読み終えて感じるのは、著者の街頭紙芝居にむける情熱の強さだ。結局、街頭紙芝居をつづけている根っこにあるのは、その情熱だ。わが身にかんがみて、身が引き締まる思いがする。